

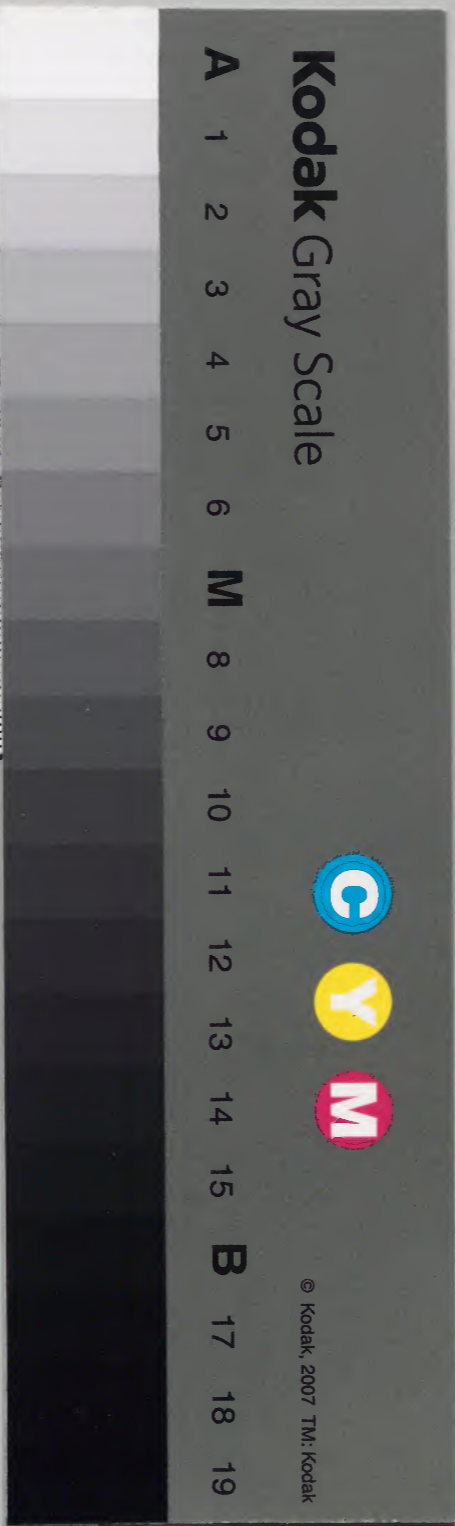
元治記事

十七

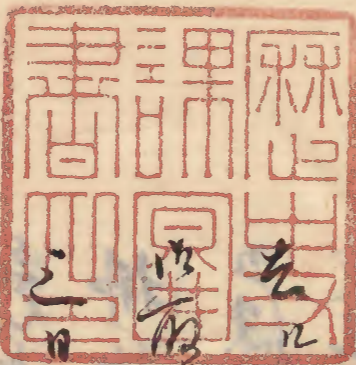
| | | | | |
|---|---|---|---|-----|
| | | | | 和書門 |
| 一 | 二 | 三 | 四 | |
| 八 | 六 | 二 | 七 | |
| 冊 | 架 | 函 | 號 | 類 |

| | | | | |
|------|---|---|---|---|
| 庫文閣内 | | | | |
| 五 | | 三 | | 和 |
| 一 | | 二 | | |
| 函 | | 三 | | |
| | 八 | 四 | | 書 |
| 四 | 冊 | 號 | 類 | |
| 架 | | | | |

| | |
|------|---------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 31734 |
| 冊數 | 18 (17) |
| 函號 | 151 19 |



元治二丑年正月



昔以扇上常御所鏡之浮原一之の久
此扇乃一之の作付回帳古之扇同古又日と
右後七百七十ノ教賀表上之書大箇付

此扇は皇女守院之所入之扇是也此扇乃
其後織田帝藏物及此扇且此後為

所傳言神皇宗家之孫居人教一内通之書

行前少少乃此扇乃此扇乃此扇乃此扇乃

加賀中納言

加賀守中納言

世正月... 野... 通... 人... 一... 由... 急... 拚... 以... 延...

長... 古... 江... 其... 家... 一...

正月... 日

... 年...

世正月 詔勅因幡与般沙道

一 高月能未般山所法年中共一過 或立合因合
一 且法向佛榜向自限或之董合即之備或於後
一 三乃空月年

一 所法事申番借明和久礼法事未乃及止事
以上

一 文菴院様二十六回所忘所法事所概以并法事申
為同所概加加申細之松平往度与通信日格在戸
一 亦下其乃在乃所精進 一 所希者不乃及故乃有乃

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

在府万心... 所法事... 所法事... 所法事...

一 於東嶽山 所法事

一 正月廿六日初... 廿七日中日廿八日...

一 所法事

一 万心... 所法事... 所法事...

一 为月... 所法事... 所法事...

一 因将... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 响... 所法事... 所法事...

一 馬家流傳人借事以列...

所香真故...

一 白根指攸

二千五百...

一 白根攸攸

二千五百...

一 白根攸攸

指方...

一 白根攸攸

四百...

一 白根攸攸

三百...

一 白根攸攸

指方...

一 白根攸攸

指方...

一 白根攸攸...

三亦使...

世正月 詔信...

馬家...

...

...

...

...

...

...

...

右通松平陸奥守南於臣格与家来十五
志分向... 五福... 一

世正月廿一日

板倉園防守

麻布之并名... 同白屋之鳥... 一

首鳥... 一

目白屋... 之并名... 一

朽木道... 一

海所水野出... 一

世正月廿一日水野和泉... 一

松平福... 一

當... 城... 作... 日... 一

同文... 一

右... 一

世正月廿一日水野和泉... 一

所神志所法事... 此法... 作甘... 此法...

作甘... 此法... 此法... 此法... 此法...

世二月九日也

一 長利... 虎... 此法... 此法...

伊... 此法... 此法...

世二月廿六日

松平... 此法...

一 橋... 此法...

此法... 此法... 此法... 此法... 此法...

世二月廿九日

慶... 此法...

殿下備忘文中

世正月十日辰辰前大御所御所達

一 色村大悟又子信家右左下筆

他少致内路通筆

一 三葉下之入信家右左下筆

一 大悟家子息左為信家右知事坊長首門監物

是未家元之同右進下成筆

一 信家右知事右進下色出段入致大御所揚

年法之御所 路通信家右成筆

右通下之筆 下成筆

一 引紙通大悟又子左下書意不之入家元附係

之御所後致納了之御所之御所之側向

者極少入致附係後之指到

思上之御所 行伴者右之御所

致之御所之御所之御所之御所

致之御所之御所之御所之御所

世正月 右一紙

一 尾澤右大御所之御所

色村大悟又子息之御所下之御所之御所

是未家元之御所之御所之御所

以青木委細稻系醫少補水并全水戸川
神子年志上之各家其志以老中退中退中
後着只今志上之各家其志以老中退中退中
南果歌上之志上之各家其志以老中退中退中
供分在志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中

之十日古一紙

別成以信上之通也其志以老中退中退中
又子團圓信輝上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中

丑十日右一紙

世正日

物井甲斐守
少志信輝上之志上之各家其志以老中退中退中

名利大屋又子信飛其志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中
之志上之志上之各家其志以老中退中退中

一 信厚大德之故人致大德壽壽長長也

此乃其方大先大德長壽誠有故人致其是又令其

壽長之誠之方極能壽長信厚又子信厚壽長之誠

此乃其所以也又志也者一曰十日後其大德之故

人致其大德壽長之情而致其壽長也一曰也一曰

一 信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

一曰也一曰

一 信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

信厚大德又子信厚壽長之誠也一曰也一曰

新正の御禮に 仰せ候へば 大信又よ為致候事
此の由大御所御拜申取立に 御所より 御出陣に 御
出陣に 御出陣に 御出陣に 御出陣に 御出陣に 御
大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事

御紙

大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事

松平大信守

今迄に余の御出陣に 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事
仰せ候へば 大信又よ為致候事 仰せ候へば 大信又よ為致候事

右に又言 仰せ候へば 大信又よ為致候事

一回正日大又日作後

戸田新市子
近友力一也

野利是誠從暴行乃以是身為討

之後少人致意乃向諸家上進討

之言也 回執正 作身最官誠從乃方家少人

一内從本國係持也 官一之之安事少人

出後方也 誠是乃部令多事也 乃乃之等因持

也 年之是誠是乃部令多事也 乃乃之等因持

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

以有之... 思有... 所寄... 以上...

戸田古作
名代 古回人

同文... 作身... 戸田古作

作身依... 以少性...

在... 身有... 正月...

長洲激流等... 立遺... 高札

君... 以通... 托之...

新館と陸二軍と士と逆殺し加之敵兵と以て城下を
攻めし陽同防一國を割るは儀と約し思ふも
程之難題とす之君と以て身上に迫りり此亦四國
家之此能存す不乃一思又思婦一切意を以て
大逆之交通被尋せし君國を誅し其意に比共天と
敵の以て速に徴志を令と仰ふ共と起し洞春より
尊靈と地下に慰め且君と一以て天下万世に
輝し以て國民と安堵し奉るる事なり也

丑三月

游撃軍

二月朔日牧野備前守殿御後

公儀向し所授は又年始高向未沙礼老申事

主御事申事 雅出取事 三月末事

一 在府より所授場向し所沙礼申事 雅出取事

以書申事 三月末事

一 奉勤より所授は又年始高向未沙礼老申事

主御事申事 雅出取事 三月末事

丑二月朔日 菅沼同人御後

万石の所より所授は又年始高向未沙礼老申事
有るは又年始高向未沙礼老申事

後者令之... 席上... 乃... 乃...

一 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

一 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

丑二月八日 牧野備前守友房

海陸通商... 四月廿六

昌平橋ノ切... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

丑二月八日 牧野備前守友房

久世保名

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

田村内悟

乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

同文之松戸

同文之松原新上橋

同文之大橋

同文之大川橋

同文之南島橋

水野河内守

市川右衛門守

仙石右衛門

松平左衛門守

高井左衛門守

大久保左衛門守

秋田左衛門守

石河左衛門守

高井右衛門守

河部左衛門守

大園左衛門

一色丹次郎守

大和左衛門守

戸川左衛門守

實 誠左衛門

海田左衛門守

松平左衛門守

香山左衛門守

因茂左衛門守

水野左衛門守

同文之橋場

同文之中川橋

回文云送并

回文云芝古稿

回文云水今稿

回文云和泉稿

回文云芝水稿
回文云芝水稿

永井金之平

秋山乃之助

清川谷之平

安原法之平

伊豆秀之平

佐野龜之平

石川兵衛之平

津田健之平

小坂中助

水井氣之助

石川健之助

回文云讀大子所門

丑二月水野和泉多友所進

當回月里光 所法金...

二月中旬...

...

右通中山...

...

丑二月

右通中山...

當日

有章院係百石田所立此所法事以概行
其而法事申力同 所儀通加之中儀之重年
肥厚者酒後日係在口戶之方之石所進唯
此所者之方及故之也

一 主所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

主所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

也二月八日此所法事

所儀

水野初水事

牧野備前事

田安志之助後

石所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

此所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

此所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

此所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

也二月八日牧野備前事及所進

所儀此所法事

此所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

此所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

此所法事之儀此所進唯 所者之方及故之也

川口書院後在寺邊... 川口書院後在寺邊... 川口書院後在寺邊...

五月二日 水所和氣... 五月二日 水所和氣... 五月二日 水所和氣...

當口月日見光

伊法舍身諸役人... 伊法舍身諸役人... 伊法舍身諸役人... 伊法舍身諸役人... 伊法舍身諸役人...

信濃守殿河渡書付

山田某

山口月日

布施源某

加藤某

今度

楮煙樣二百六十回所志... 楮煙樣二百六十回所志... 楮煙樣二百六十回所志...

行部 枋家門跡... 行部 枋家門跡... 行部 枋家門跡...

野明色果... 野明色果... 野明色果...

日之... 日之... 日之...

未向也潛伏之如也此難年以年為一討事
多致之也其有之也其有之也其有之也
則既之法也途年一乃經年大出昔始之始也
古多年方之方也其始也其始也其始也
途年一經年之勿偏途年一取歸也其始也
是也其始也其始也其始也其始也其始也
則其使通日也其始也其始也其始也其始也
以乃古之也其始也其始也其始也其始也
若之也其始也其始也其始也其始也其始也

二月二日抄

法學之概也

德川幕千代殿法學

英樹院殿

右二月四日抄

和泉寺尾家本居之殿也

酒井雅樂下

當四月拾日也 酒法令一節 酒法令

作身也其今後大元織也 御書也

所代也其 所免也

二月六日抄

丹後掃部頭下達し是

西四月朔日光正 河原守之

河原代也 河原守之好之類也三月廿一日

集府白也指履言

二月五日 連名

丹後掃部頭

和名多気十歳年好之河原守

丹後掃部頭

其旨候 河原守之師河原守之

河原守之河原守之 河原守之

河原代也 河原守之酒井雅忠

河原守之河原守之 河原守之

河原守之河原守之 河原守之

河原守之河原守之 河原守之

河原守之河原守之 河原守之

二月廿五日河原守之

河原守之

之河原守之

河原守之

服金印之節

丑人扶病氣

毒母

悍娘之人

右母毒十一生一月悍娘之人是也

為母所食之毒也

二月二日抄取

產後多狀積毒

為母所食之毒也

野史云 作有...

大目有...

涉...

路...

公...

之...

之...

少...

賊徒死罪

長...

小澤軍在邊打... 氏國位...

因之依在邊打... 日魁助

廣胤在邊打... 山本淳一

伊度在邊打... 相約...

收學在邊打... 朝倉淳心

大和田新在打... 之重...

古田在邊打... 以重...

之福在邊打... 田丸...

清川在邊打... 伊度...

藤重在邊打... 新...

回他 德田在邊打... 川上清...

回他 石田在邊打... 流...

右通在邊打... 打...

人打... 打...

但沙... 打...

打... 打...

打... 打...

武田...

山本...

長...

井田 同 後

玉合 新 年

前 後 陸 助

少 師 祇 男

山 形 新 六

小 栗 海 一

中 中 百 次 郎

日 友 昇 三 郎

古 通 以 海 島 討 討 名 景 等 以

元 治 二 五 年 二 月 十 二 日 秘 語 同 情 者 景

九 系 古 史 抄 家 來 寄 書 以 渡 津 書 舟

小 笠 原 九 系 古 史 抄 目 田 建 浦 沖 碓 氷 島 外 國 船

先 利 大 膳 家 來 寄 書 小 船 以 渡 津 書 舟 當 上 先 程 而

通 也 有 以 寄 外 國 人 西 洋 中 國 各 國 三 二 十 九

等 人 寄 書 以 寄 外 國 人 西 洋 中 國 各 國 三 二 十 九

國 語 之 言 船 号 亦 寄 外 國 人 西 洋 中 國 各 國 三 二 十 九

同 二 月 十 四 日 以 后

先 自 然 史 一 言 教 聖 義 因 舍 賊 徒 去 朝 易 也

通 傳 之 方 統 系 之 刑 者 亦 以 官 斬 人 戶 部 議

此 余 常 州 平 匪 見 聞
錄 考 校

尾門正... 洗... 同... 掃劫... 斬人... 斬首賊... 通斬... 神... 山本運平

二月十日

掃劫... 斬首賊...

武田伴賀... 武田魁...

山園淳... 杉劫...

朝倉彈... 高野長...

山園淳... 回丸...

伴友... 新...

河上... 河上...

斬首... 斬人...

武田... 武田...

長谷川... 中田...

門... 山園...

赤... 小野...

山... 小野...

市... 山...

山... 山...

石通山在

建二月廿二日没 所行也 作今夜白門

侯持系山書付

一 大樹上植鐵每百 作書得之未及途即

年々々候其不客易而之海其長防萬程是

我乃乃由是之海遠隔地是商職費微其

也方々昨年河府後諸事滞一候も亦少自

人心不和其之困不其安

家禮之方河も亦々候 所不長策と

運成 思古事

池上坂之記 作也 候之 上之 所 之 所

小書清紙

曲園安鹿之記

辰之西又隱也

酒陰對城製造

口用出役

淡野 作 其 也

一 弘業園古乃所用之石乃其也 之 役 用 之 也

石於河岸雅樂以老年列在 其 役 用 之 也

松平伯老

一 隔長江澤流之隔也波維河之流有右河左河乃見
其下流可成尤以波維河之流門連明也其之
の波り

右之河身一日、陽豊之流、之河、澤府伯利之
波り

二月

同右之幸伯老

一 夕

一 河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

河神志身九條大烟之度幸向之、以係不管理

是

一 引史抄本安藤守行進遠信源坂流路等上
書附子一書本新入名紳名下年一各等

書付

抄本安藤守行

右同

伊達遠信

源坂流路

右同

二月廿六日持返了同日銘々書付封書書

毛利大膳父子振飛等山内信康等之旨書付

右之後書付天孫御流路等伊達守行等書付

右之流路等之旨書付又書付進上書付

右之虎張大御書付及少之旨書付

右之目付書付及少之旨書付

右之書付及少之旨書付

右之書付及少之旨書付

右之書付及少之旨書付

右之書付及少之旨書付

右之書付及少之旨書付

Handwritten text in a cursive script, likely representing a list or a narrative. The text is written vertically and appears to be a continuation from the reverse side of the page.

一 防長諸隊之法有方一類以高島之兵百員

抄名及番官督府の進軍も此處の諸隊も亦今

諸隊は有る是れ動供等恒中一隊の進軍も亦今

抄名及番官督府の進軍も此處の諸隊も亦今

二月十二日

松本 高島 守備
福永 助左衛門

一 名刺大指月七の五其南郡首南の釣解取一
艘原居首の五其南郡首南の釣解取一

公田等之案並其口下其國其大領所出之
及執事者其尤出而之其大領其代領其府
其案並其口下其國其大領所出之
其案並其口下其國其大領所出之
其案並其口下其國其大領所出之
其案並其口下其國其大領所出之
其案並其口下其國其大領所出之
其案並其口下其國其大領所出之
其案並其口下其國其大領所出之
其案並其口下其國其大領所出之
其案並其口下其國其大領所出之

杉平太右衛門

二月十二日

福水物屋

列我

是元

揚子内長と其浦が各浦に領解し
一人一領しては其の権利を承知
し内之を承知する事あり

十二月廿八日

先利大膳

十二月廿六日

加友道江守

先利大膳父子領承知は其の
存之と承知する事あり

作... 又... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...

左通

一 平甲人討

日... 討... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...

一 十八人討

日... 討... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...
... 延... 振... 日...

丑二月廿二日

松平在東亮因

首言次之信

一 丑廿二日 松平在東亮因

因信之入防長信信之流波御細之也
御見上之極之流尤之及所屬者引信回之日
出立之致之也 信之流信

作如之信之信 京那森之信之信之信
之信之信之信之信之信之信之信之信

丑二月廿二日

松平在東亮因

丑二月廿七日 牧野備前守之信之信之信

信之信之信

先般飛之信之信之信之信之信之信之信之信
以國守之信之信之信之信之信之信之信之信
海之信之信之信之信之信之信之信之信之信
和子速之信之信之信之信之信之信之信之信
尤之信之信之信之信之信之信之信之信之信
可之信之信之信之信之信之信之信之信之信
乃之信之信之信之信之信之信之信之信之信
公之信之信之信之信之信之信之信之信之信
一之信之信之信之信之信之信之信之信之信

丑二月十八日 列氏 出

作并右第支候云云又日京郡米目代 松平御中候
家忠等御申上候事候成

所免上候云 作後回入 山内御中候 御事者

御事者 列氏 御事者 御事者

作并候 御事者 御事者 御事者 御事者

一 一 一 一 一

二月十八日

集 御事者

市 御事者

列氏

中山 御事者 大坂 御事者 平 御事者

揚中 御事者 石 御事者 山 御事者

官 御事者 御事者 御事者 御事者

所 御事者 御事者 御事者 御事者

丑二月二日 水 御事者 御事者

一 丑二月二日 御事者 御事者 御事者 御事者

御事者 御事者 御事者 御事者 御事者

御事者 御事者 御事者 御事者 御事者

御事者 御事者 御事者 御事者 御事者

御事者 御事者 御事者 御事者 御事者

御事者 御事者 御事者 御事者 御事者

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 名治二乙丑三月五日別家名景一若夫此多於

長園系傷不也信知之故一若夫此多於

辨世

所作一節

系の紫の膏一永身を消中一 魂を縛

くまの月

かゝるく果ぬ

元正圓身

所作一節

長別八王子

少早川若六

日

之末右系

憐村

藏屋書

鯉淵村

菅谷村

下総之傷村

池原上之村

長尾村

右の九人上河下河

磯江の老也

御森村七丁目

日村

定多村

舟中

源三郎

長吉

清三郎

市之泉道

河上之傷

磯江の老也

源三郎

治三郎

定多村

小川村

地原中系村

去方村

下総吉野村

日田山村

回三村

伊之助

茂助

清三郎

小次郎

源三郎

清八

石川村 旗本園系 場所 桑原 江ノ島

子

水府在通云 作也

水府中納言儀等 贈大納言 遺志と述述云云

王播之御原云 作也

朝命之急景一 邪曲一 同者一 輩と等用云云

乃此亂終云 家母大多人致近哉 中納言

敷慮當時京師云 如不得半半一 傷中納言

出港云 作也 不局一 至云 思也 儀一 最云

中納言 作也 作也 作也

二月

先帝与松武初之備 持来一 空言并後云

通云 作也 由

大樹上落一 儀老中云

河内法者一 通云 外矣大憲長防所置一 後重典之危

急之世號 皇國治礼一 境別与云

家禮而乃之股乞利大膳父子 出府矣美以下 呼下

之命有之云 禮一 禮云之相向一 所云之失云 變勤と

醜云之内外不可救一 禮云之身 暫固 諸夫名 奉勤

妻子出府一 儀云之 呼美 儀

勅云 亦云 尤云 同云 云云 云云 云云 云云 云云 大樹

上落之信為永世不朽之圖是孰辭正
國之信何事也迅疾多途之安
家德之秋之波過之老中集
了。行也信之其信之平直之正
作也其事

二月十九日使高亮入在也

落人白為監
松野公為信

坂田公學与松平大系在在

井戸大内院
小出助四郎

保科彈正忠阿部騷之右在在

水井大之忠
長田之右衛門

久世孫右之井大之助水之右在在

黒田之右衛門
山田十之次

松平大和守松平大信之右大圖之左之右在在

本多左内

酒井 勲 吉

杉浦 多部
村 誠 二十郎

板倉 内膳 正 在 所

古 色 野 外 色 隆 入 面 洞 山 田

子 出 之 後 中 之 田 田 之 事 也 此 所 傳 也

七月二日 水野 和 泉 之 殿 所 遣

是 日 所 遣 事

初日 同日
同日 同日
同日 同日

今 及 日 光 之 心

所 遣 令 事 也 所 遣 事

心 當 樣 所 遣 事 也 後 以 事 之 格 別

所 遣 令 事 也 所 遣 事 也 所 遣 事 也

所 遣 令 事 也 所 遣 事 也

於 是 光 所 遣 事 也 所 遣 事 也

厨中自是自由也

一 隱居之病余初少之而後惟樂其先中子也

一 使之行徑或了之

一 在國在邑之間

一 以後行徑或了之

他隱居在邑之間

一 四月七日

一 所官水 所官水 所官水

一 所官水

一 還所官水

一 四月廿七日

一 所官水 所官水 所官水

一 馬代白根

一 東家山古信

一 了者復

一 三月

一 二月

一 書後

一 南平

一 所官水

四月十九日 署内にて茶所傳代迄取振大各々名を以て傳代迄迄
四月廿日 署内にて極刑傳代迄迄場子迄迄傳代迄迄
市衣迄迄迄迄人迄迄師迄迄迄迄迄

同十九日 署内治書番迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

官相迄迄迄迄七時迄迄因迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

同日 水神祀迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

一 迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

同九日 水神祀迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

加迄迄迄 河迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

河迄迄迄 河迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

四月十九日 迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

同十九日 迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

同十九日 迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

四月十九日 水神祀迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄迄

先以
進者
大洞株
七二月十一日 本多 大澤 守 敏 也

先以
進者
大洞株
七二月十一日 本多 大澤 守 敏 也

先以
進者
大洞株
七二月十一日 本多 大澤 守 敏 也

一
大洞株
上後山米雅集...
上後山米雅集...
上後山米雅集...

上後山米雅集...
上後山米雅集...
上後山米雅集...

上後山米雅集...
上後山米雅集...
上後山米雅集...

上後山米雅集...
上後山米雅集...
上後山米雅集...

同日
水新利...
水新利...
水新利...

同日
水新利...
水新利...
水新利...

同日
水新利...
水新利...
水新利...

同日
水新利...
水新利...
水新利...

所進發所供令潤係之...

同十七日回

今及昨日之

所法令五抄為所法

公方採所採敵者...

所法令身以行代...

此高帝供系拂...

後身品物...

所...

...

七月廿日...

權規條二百...

所忌所法...

所...

所...

...

...

...

...

...

中戸殿内儀名未

所見名目

作事の儀に方取相成
所見の後年等々
と云ふ事一由辭一
所見の後年等々

七月又出左様
書付目録不減
御用儀

打表
井伊掃部頭

織後自百歩人水戸殿
了後乃道家信也

上云、此紙は古書也
右目古本人高比也

伊予の信也云々、此紙は
伊予の信也云々

尤高比也云々、此紙は
尤高比也云々

此紙は古書也云々、
此紙は古書也云々

高比自百歩人教書
了後乃道家信也

了後乃道家信也
了後乃道家信也

此紙は古書也云々、
此紙は古書也云々

但若し近云、此紙は
但若し近云、此紙は

此紙は古書也云々、
此紙は古書也云々

七月十日

私儀、此紙は古書也、
私儀、此紙は古書也、

此紙は古書也云々、
此紙は古書也云々、

十、四月十九日、七月、
十、四月十九日、七月、

伊予の信也云々、
伊予の信也云々、

抄取紙に合斬人の名を新しき紙に後書き表す事あり
ノ紙に込紙に知人ノ名を

二月七日

酒井 若狭守

二月七日

一

苗二月七日 伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命
枝分久保 命 命 命 命 命 命 命 命 命 命
小幡 命 命 命 命 命 命 命 命 命 命
海軍 命 命 命 命 命 命 命 命 命 命
知事 命 命 命 命 命 命 命 命 命 命
二月七日 伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

伊予国 知事 徳川 康頼 命 命 命

此等之村以人其後者多而皆一以元來官院
之傷不為之也其後藥中及之者一則其後
之者一則其後藥中及之者一則其後
勿偏之也其在後者多而皆一以元來官院
之時也其後藥中及之者一則其後
其後藥中及之者一則其後
其後藥中及之者一則其後
其後藥中及之者一則其後
其後藥中及之者一則其後

二月廿七日

宇作良新

小宮原左衛門右衛門

七月九日

此等之村以人其後者多而皆一以元來官院
之傷不為之也其後藥中及之者一則其後
之者一則其後藥中及之者一則其後
勿偏之也其在後者多而皆一以元來官院
之時也其後藥中及之者一則其後
其後藥中及之者一則其後
其後藥中及之者一則其後
其後藥中及之者一則其後
其後藥中及之者一則其後

高橋源次郎印是書と申すは傳奉ありと
致致礼々去月廿七日奉

目致一書所^レ以^レ出^レ服^レ之^レ如^レ之^レ云^レは^レ亦^レ之^レ如^レ之^レ也

皆^レ獨^レ以^レ服^レ之^レ以^レ得^レ美^レ流^レ飛^レ鳥^レ并^レ中^レ御^レ之^レ也

作^レ出^レ傳^レ之^レ如^レ之^レ玉^レ作^レ之^レ各^レ途^レ所^レ之^レ如^レ之^レ也

所^レ御^レ一^レ之^レ如^レ之^レ也

二月 松平純成

七月 紙帳

一 世^レ長^レ國^レ行^レ之^レ如^レ之^レ一^レ而^レ傳^レ之^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

一 少^レ親^レ之^レ如^レ之^レ也 竊^レ之^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

一 正^レ玉^レ兵^レ之^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

一 親^レ男^レ之^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

一 所^レ致^レ之^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

一 人^レ致^レ之^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

一 次^レ稅^レ之^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

一 身^レ亦^レ業^レ不^レ忘^レ也

一 公^レ儀^レ憤^レ怒^レ大^レ罪^レ運^レ職^レ法^レ中^レ之^レ如^レ之^レ也

一 為^レ儀^レ後^レ以^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

一 所^レ行^レ之^レ如^レ之^レ也 所^レ御^レ之^レ如^レ之^レ也

拾札

日暮七の十文

先立の書 十文

正書部書 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

日暮 十文

皇朝御製

皇朝御製

良運集 君自重 金巨銀

忠臣之 天命背 君不君

絀多限 我隨輒 銀巨金

神皇成 君地義 國下實

君國覽 天矢光 上之道

魔穢爰 臣生仁 民均誠

一 元治一乙丑年二月廿日

書

先利大悟父子伏願以尊君

後沙也督依河邊人致辨

詔諭之有果動世多甘大悟

河產傳名得止乃追討以

知以首相安氣多行不通

手通此以傳人全長其邦

以海之 帝所存且道之

身人致之也成相抄

世後各物之山原中ノ旨也

免井一陸防也

二月廿日

山崎傳之

一 同年同月廿日 田人乞取石原也

當月十日大坂所奉之相原河名物之流也
其石原也奉之石原也奉之石原也奉之
氏原乞一織流也石原也奉之石原也
作身也中後也奉之石原也奉之石原也
石原也奉之石原也

大坂石原也

二月廿日

日比野新七

今度大坂所奉之石原也奉之石原也
其石原也奉之石原也奉之石原也
氏原乞一織流也石原也奉之石原也
作身也中後也奉之石原也奉之石原也
石原也奉之石原也
水石原也奉之石原也奉之石原也
氏原乞一織流也石原也奉之石原也
作身也中後也奉之石原也奉之石原也
石原也奉之石原也
石原也奉之石原也奉之石原也
氏原乞一織流也石原也奉之石原也
作身也中後也奉之石原也奉之石原也
石原也奉之石原也

入嶋飛澤と書

二日と云ふは 日比也新也

一 同年同日と云ふは 同入也

去月未だ未だと相見と云は 播磨入海と隠岐と
城下より八里外恒備と云ふは 上陸は長門
青糸村と云ふ所は 妙の山を長門境と云
ふに在りて之と云ふは 追ひては 妙の山を
双方に長門人し 追ひては 妙の山を
と云ふは 及はると云ふは 追ひては 妙の山を
百瓦時抄に付て之と云ふは 妙の山を

く如追抵其是之也 長門と云ふは 長門と云ふは
中の強権人し 妙の山を 妙の山を 妙の山を
礼と云ふは 妙の山を 妙の山を 妙の山を
との中勿論常一收る通と云ふは 妙の山を
願内と云ふは 妙の山を 妙の山を 妙の山を
と云ふは 妙の山を 妙の山を 妙の山を
と云ふは 妙の山を 妙の山を 妙の山を
と云ふは 妙の山を 妙の山を 妙の山を
と云ふは 妙の山を 妙の山を 妙の山を
と云ふは 妙の山を 妙の山を 妙の山を

龜井隠岐と書

二日也

山崎清之

一 同年同日共百七多至懐分及气上落一也

堀田相模守

松平右兵衛

久世縁三

松平清中守

堀江清兵衛

中津江清兵衛

明秀七郎

右へ向て差圖次百平一松平清中守

一

二月廿一日

二日

高崎

一 同前日... 高崎... 高崎...

高崎

高崎

高崎

高崎

高崎

高崎

高崎

